



1) 栗木達介《しろとぎんの作品》

現代のやきもの 思考するかたち

菊池コレクション

Contemporary Ceramics—Thoughts on Form from the Kikuchi Collection

展覧会会期 2023年1月3日(火)～3月19日(日)

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35

<https://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は最終頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
このたび当館では 2023 年 1 月 3 日（火）から 3 月 19 日（日）までの会期で、
「現代のやきもの 思考するかたち 菊池コレクション」展を開催いたします。

やきものといえば、一般的には皿や鉢、花器のような器の形を想像することでしょう。しかし、現代の陶芸作品には器以外にも多彩な形があり、その形を成り立たせている背景に思いを巡らすと、そこには作家の思考が存在していることがわかります。

本展では当館創立者 菊池智（1923～2016）のコレクションを中心に、器の形態にやきものの魅力を発揮し展開した作品や、土を用いた自由な創作としての造形作品を一堂にご覧いただくことで、現代陶芸の形の豊かさと、その根源にある作家の創意に迫ります。

造形に対する考察や素材との向き合い方、それに見合う技法の選択や会得といった、創造性を核とした要素から生まれた現代陶芸のかたちをぜひご高覧ください。

つきましては、展覧会の概要、見どころ等をお知らせいたしますので、ひとりでも多くのお客様にお運びいただけるよう、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■ 展覧会概要 ■

展覧会タイトル：

「現代のやきもの 思考するかたち 菊池コレクション」

Contemporary Ceramics—Thoughts on Form from the Kikuchi Collection

●会 期 2023 年 1 月 3 日（火）～3 月 19 日（日）

●主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社

●協 賛 京葉ガス株式会社

○会 場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル）
<https://www.musee-tomo.or.jp>

○観覧料 一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円

○開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）

○休館日 月曜日（但し 1 月 9 日は開館）、1 月 10 日（火）

○展示内容 菊池コレクションより近現代作家の陶磁器作品 50 点余を展示。

展覧会に関するお問い合わせ ☎03-5733-5131／FAX：03-5733-5132

（担当：足立）

加守田章二（1933～1983）は、器の形態を基本に、土や釉薬の性質と質感、表面に施す文様といった陶芸の主要な要素を意識的に組み合わせ、約20年という短い作陶人生のなかで、作風を多様に変化させながら進化を続けました。《曲線彫文壺》（図2）は、多面体の器状を覆う波状の文様が特徴です。形の凹凸が彫文の階調と連動し、より複雑で表情に富んだものとなるよう、互いに引き立たせ合う効果を意識して制作されたことがうかがえます。



2) 加守田章二《曲線彫文壺》

栗木達介（1943～2013）は、確かな技術とやきものに対する厳格な自覚によって、自身の制作意図を器や用途を持たない陶芸作品に色濃く投影させた作家です。新収蔵作品の《しろとぎんの作品》（表紙・図1）は栗木が30歳の時、1973年の改組第5回日展に出品した作品で、凹凸を連ねながら全体を形作っています。ふくらみとくぼみという基本的な対立項を反復させるという明快な発想だからこそ現れるシンプルな形状と、それを強調させるかのように施した銀彩とが調和した造形となっています。



3) 栗木達介《歩行する輪態》

同じく栗木の《歩行する輪態》（図3）は、乾燥と焼成による収縮・変形という陶芸の宿命に着想を得た作品です。この作品が生まれた背景について栗木は以下のように語っています。「僕の窯詰めは、大きな作品でも、まず、窯底に耐火砂のシャモットを撒いて、さらに、作品の底部と同じサイズの粘土板を敷き、その上に、作品を宙に浮かすようにしてセットします。そうすると作品は焼成中に、その板と一緒にゆっくり滑るように縮んで、焼成が終わると、ひと周り小さくなり、その縮んだ跡が、耐火砂の上にくっきり残ります。あたかも、作品が這って動いたかのように。」（註1）本作品では、栗木が陶芸の成り立ちの中にテーマを見出し、その上に個としての独創性を確立していることがうかがえます。

（註1：『炎芸術』NO. 45「特集：栗木達介 インタビュー」1996年 阿部出版）



4) 和田的《表裏》

和田的（1978～）の《表裏》（図4）は、当館が2004年から開催している現代陶芸の公募展「菊池ビエンナーレ」の第7回大賞受賞作品です。本作はロクロで磁土を厚くひき、乾燥させてから削ることにより形作られています。作品中央のラインの有無によって、人の心の明と暗の表出の違いを表しているといい、対であることが強く意識された造形であるとともに、蓋物のように上下で分割された一对で成り立っており、器の展開としての形ともいえます。また釉薬を掛けないことで、ラインの凹凸や形のシャープさがはっきりと残り、緊張感のある佇まいとなっています。形に対する思考に始まり、技法や釉薬といった諸条件が作家自身によって選び抜かれた結果の造形といえます。



5) 木野智史《風(螺旋)》

木野智史（1987～）の《風（螺旋）》（図5）は2022年に新たに菊池コレクションに収蔵された作品です。ロクロでひいた円環状の帯を、予め制作しておいた土台に載せて三次元的に広がる複雑な形状に保持し乾燥させた後、研磨や焼成の工程を経て作品化します。釉薬は重力に従って流れ落ち、自然なグラデーションとなって作品全体を覆っていますが、形は土の重力にさからって形作られており、作家の創意と素材の特性とが拮抗し合ってひとつの作品の中に存在していることが感じられます。

現代陶芸の魅力は、制作者自身の創意が出発点となっており、これらをどのように用い、発展させながら自身の作品として結実させていくかという思考やプロセスのなかにあります。本展では、菊池コレクションのなかから50点余りを展示し、その魅力を探ります。

【出品作家】（一部）五十音順、敬称略

秋山陽、荒木高子、伊藤慶二、大塚茂吉、岡部嶺男、小川待子、加藤委、加守田章二、川上力三、川崎毅、木野智史、七代 清水六兵衛（清水九兵衛）、栗木達介、小池頌子、杉浦康益、鈴木治、辻清明、三代 徳田八十吉、新里明士、深見陶冶、藤平伸、三輪龍氣生（十二代 三輪休雪）、森野泰明、八木一夫、樂直入（十五代 樂吉左衛門）、和田的ほか

画像貸出については6頁の申込書をご覧ください。

■関連行事■

会期中、下記の展覧会関連行事を開催します。

予約不要

◎出品作家によるアーティストトーク

自身の制作についてうかがいます。

いずれも 15 時より当館 B1 展示室にて

《日程・ゲスト》2 月 11 日（土・祝）和田的

3 月 11 日（土）木野智史

◎担当学芸員によるギャラリートーク

いずれも 15 時より当館 B1 展示室にて

《日程》1 月 14 日（土）、28 日（土）、2 月 4 日（土）

要予約

◎ファミリープログラム

家族でカードを使って展示室の作品を見てみよう！

当館 B1 展示室にて

《日時》2 月 25 日（土）14 時より 1 時間程度

《講師》藤田百合（東京国立近代美術館 教育普及室研究員）

《定員》10 組、お申込制→TEL：03-5733-5131

《対象》小学生以上とご家族

《参加費》こども無料、保護者の方は一般観覧料（1,100 円）が必要です。

（当日観覧券をお持ちの場合は無料）

※新型コロナウイルス感染症の状況により、関連行事の予定が変更となる場合がございます。

最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、下記までお送りください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で下記担当者までお知らせください。お貸し出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 TEL.03(5733)5131 菊池寛実記念 智美術館(担当:足立)

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作家名、作品名、制作年、撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
☐	図1) 栗木達介《しろとぎんの作品》1973 年 H38.0×W60.0×D41.0 cm (撮影:伊藤裕樹)
☐	図2) 加守田章二《曲線彫文壺》1970 年 H24.0×W25.7×D22.7 cm (撮影:湊忠之)
☐	図3) 栗木達介《歩行する輪態》1976 年 H44.5×W54.0×D40.0 cm (撮影:田中学而)
☐	図4) 和田的《表裏》2017 年 (各)H44.0×W15.5×D10.0 cm (撮影:尾見重治、大塚敏幸)
☐	図5) 木野智史《嵐(螺旋)》2019 年 H29.5×W62.0×D46.0 cm (撮影:伊藤裕樹)

●読者プレゼント用チケット希望: ☐5組 10名様 ☐10組 20名様

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説などをプレスの皆様にご説明申し上げます。

ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2023 年 1 月 13 日(金) 16:30 ～

16:30 ～17:00 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。

展覧会の会場内をご撮影いただけます。

17:00 ～17:15 皆様からのご質問にお答えいたします。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、場合によっては中止いたします。

※この度のプレスプレビューは開館時間中に行います。撮影の際にはお渡しするプレス章を着用くださるようお願いいたします。

会場：菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅出口 A1・A2 徒歩 8 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅出口 3 より徒歩 10 分

◆.....
ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、
E-mail もしくは FAX にてご返信下さい。

E-mail info@musee-tomo.or.jp

FAX 03-5733-5132

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	